せぼね(頚椎)クリニカルパス

様

		手術前日(入院)　／	手術当日　／	手術1日目　／	手術2から3日目　／　～　／	手術4から6日目　／　～　／	7日目から退院まで　／　～　／
検温		入院時 1日1回行います	手術前･後 手術の前に1回、手術の後は3時間毎に行います	1日3回行います	1日2回から3回行います	1日1回行います	
観察		症状の変化や体調不良など、 変わったことがありましたら 看護師に教えてください	3時間毎に血圧などの測定をし、 傷の状態･症状の確認をします 痛み･吐き気などがある時は看護師を呼んでください	傷の状態を観察します 手術前･後の症状を確認します			
食事		普通食　(治療食の場合もあります) ＊21時以降食事は摂れません ＜手術が午前予定の場合＞ ･水分は0時まで飲めます ＜手術が午後予定の場合＞ ･水分は翌朝6時まで飲めます	＊帰室後、お腹の動きを確認してから水分が取れます 看護師が確認しますので 必ずナースコールで呼んでください ＊食事は翌朝まで摂ることができません。	普通食が食べられます(治療食の場合もあります)			
清潔		シャワー浴をして 体を清潔に整えましょう	入浴はできません	看護師が体拭きを行います	傷口の管が抜けたら、状態に合わせてシャワーを浴びる事ができます (管が抜けるまでは、症状に合わせて全身清拭を行います)		
排泄		トイレに行くことができます 病棟内を自由に動くことができます	帰室後3時間経っており、希望があれば車椅子でトイレにいくことができます 看護師が付き添いますので必ずナースコールで呼んでください (排尿用の管が入っている場合がありますが、この場合は別の対応となりますので別途対応を説明します)	理学療法士もしくは看護師とリハビリを行い状態に合わせて動くことができます (排尿用の管が入っている場合、 動きの状況に応じて抜きます。)	前日の状態に合わせてリハビリを行い、理学療法士の指示(移動方法)のもと病棟内を移動できます	トイレに行くことができます	
安静			トイレ以外はなるべく安静にしていましょう (体の向き変えは手伝います)			理学療法士の指示(移動方法)のもと病棟内を移動することができます	
診察				診察があります(せぼね医師が行います)			
処置			ドレーン(創部からの血液などを排出する管)が挿入されてくることがあります		傷の状態を確認して 傷口の管を抜きます (せぼね医師が行います)	傷の状態を確認して 貼ってあるテープを剥がします (せぼね医師が行います)	
薬物療法	点滴		手術後、翌朝まで点滴があります 帰室してから、抗生剤の点滴があります	当日の食事量によって、追加の点滴を行います。　また、採血の結果によっては、抗生剤の点滴が継続になることもあります。			
	内服薬	持参の内服薬を看護師がお尋ねします	手術の当日、常用薬を内服するかどうかは、 看護師または薬剤師がお伝えします。	常用薬を内服するかどうかは、 看護師または薬剤師がお伝えします。			
説明 指導 退院計画		＊病棟内の説明があります ＊入院までの経過をお聞きします ＊看護師から手術前後についての 説明があります ＊手術同意書などの確認をします	手術は ：　頃の予定です ･手術が終わり、病棟に帰ってきてから翌朝まで、3時間毎に体温や血圧などの測定、症状の確認･観察を行います ･1時間毎に呼吸の状態や、出血、症状の確認を行います	薬剤師から内服薬についての説明があります (手術後3日目までに)		退院･転院についての説明があります 必要があれば、自宅への退院または 後方支援施設への転院予定を、 家族･看護師･医療ソーシャルワーカー らと共に検討します	
期待される結果		術前オリエンテーションが理解でき、 納得して治療が受けられる 入院中のスケジュールを理解できる	痛み･しびれなどの苦痛症状を医療者に伝えることができる オリエンテーションで説明された指示をまもることができる ･症状が強くなってきた場合は、すぐに医療者に伝えられる ･点滴や傷口の管に注意して、体の向きを変えられる	痛み･しびれなどの症状を 医療者に伝えることができる		退院後の生活を見据えた 生活をすることができる	

2015年7月作成(2020年3月改訂)パス委員会承認　聖隷浜松病院A7病棟

症状経過によってはスケジュール通りにならなかったり、ご希望に添えない事もあります